

探究日誌 特別版

令和7年11月24日(金)に広島市立吉島小学校体育館で吉島小学校の児童と舟入高校の生徒で探究交流アトラクションを行い全国に「平和」の思いを発信しました。

今回の探究日誌は、参加した舟入高校の生徒全員で作成しています。



■ 2年生 M.Sくん

小学生と交流して感じたのは、思っていた以上に子どもらしさがあり、同時に想像以上に大人びた姿も見られたということです。初めて会ったとき、弾けるような笑顔と心配になるほどの元気に圧倒され、「これからどんなにぎやかな会議が待っているんだろう」と思いました。

しかし、いざ会議が始まると、予想とは全く違う姿がありました。小学生が姿勢を正し、輝くような目で相手をしっかり見つめ、思わず感心するほどの言葉で平和について語っていたのです。その衝撃はずっと心に残り、「絶対にこの活動を成功させたい」と強く思いました。

僕はこの活動で歌をつくるという大きな挑戦を選びました。迷いはなく、歌をつくる過程で平和について深く考えられると思ったからです。正直、これまで平和について深く考えてこなかった自分に気づいていましたが、「小学生のために自分ができるのは音楽だ」と思いました。

けれど、実際は音楽の知識がほとんどなく、「コード?何それ?」という状態で、一本指で音を探しながらのスタートでした。それでも「絶対に完成させる」という思いでなんとか形にしました。

できあがった歌を音楽の先生に見てもらおうと、課題が次々に出されました。自分のこだわりが強いこともあり、作品を否定されたように感じて正直つらかったです。歌詞づくりも一人では進まず、最終的に友達が歌詞を作ってくれました。尊敬している友達ですが、劣等感もあり、複雑な気持ちになりました。

気づけば「小学生のために」という本来の目的を忘れ、自分のことでいっぱいになっていました。修正を重ねて歌が完成し、小学校で練習をした日、体育館から聞こえてきた小学生たちの元気な歌声に思わず「いい歌だな」と感じてしまいました。

本当は全部自分でつくりたかったという気持ちもありましたが、小学生や先生方が「いい歌だね」と言ってくれる声を聞き、少しずつ受け止められるようになりました。小学生に歌を指導したとき、「いい歌だね」とまっすぐ言われた瞬間、やっと気づきました。この歌は自分だけでは絶対に生まれなか

ったということに。

先生、友達、そして小学生たちの姿勢があったからこそできた歌でした。「僕にとっての平和は、みんなで作って、答えを探していくこと」だと心から思えました。

この活動を通して自分中心だった考えが変わり、周りの声に耳を傾けることの大切さを学びました。歌の題名も自然に生まれ、本番でみんなが歌ってくれたあの日、歌に命が吹き込まれました。自分自身が大きく変わったからこそ、この歌は特別なものになりました。

■ 2年生 S.Kくん

NPO 法人の活動で小学生と関わることが多かったため、何となく参加してみました。準備や話し合いを進める中で、高校生とは異なる小学生の平和への思いに触れることができました。

また、平和班として探究活動を進めていることもあり、話し合いの進め方についても多くを学ぶことができました。

■ 2年生 S.Aさん

平和に関心のある小学生が参加すると聞き、参加しました。小学生の平和に対する思いの強さだけでなく、積極的に意見交換をし、アトラクションをよりよいものにしようとする姿勢が印象的でした。

将来、小学校教諭の仕事に興味があるため、児童への接し方や話し合いの進め方、全員が意見を言いやすい環境のつくり方など、多くの学びがありました。

今回の貴重な経験を、これからの進路実現や平和班での活動にも生かしていきたいです。

■ 2年生 S.Tさん

今回の探究交流を通して、自分にはなかった新たな視点や考え方に出会うことができました。

自分の思いを伝える方法や、さまざまな視点から物事を捉えることの大切さを学び、とても貴重な経験となりました。

この経験をこれからの学習に生かしていきたいです。

■ 2年生 M.Jくん

何事も経験だと思い参加しました。最初に小学生に会ったとき、その明るさと元気さに圧倒されましたが、積極的に話しかけてくれたことで緊張がほぐれました。

交流を通して、考えすぎずに動くことの大切さや、自分の課題にも気づくことができ、とてもよい経験となりました。

この経験をこれからは生かせるよう行動していきたいです。

■ 2年生 T.Yくん

いろいろな人と交流したいと思い参加しました。夏休み明けから長期間にわたり小学生と関わる中で、初めは緊張していた小学生も、交流を重ねるごとに自然な笑顔を見せてくれるようになりました。

小学生の可愛らしさに癒やされつつ、最後まで緊張していたのは自分自身だったかもしれません。この活動を通して、小学生や先生方など、立場によって立ち振る舞いや伝え方が大きく異なることに気づきました。自分は物事を簡潔に伝えすぎてしまう傾向があるため、相手の背景を考えた伝え方を工夫できるようになりたいと感じました。

■ 1年生 T.Mさん

これまで同級生と平和について意見を交換することはあっても、年齢の離れた小学生と話し合う経験はありませんでした。

小学生の発想には新鮮なものが多く、自分にはなかった視点を得ることができました。今回の経験を踏まえて、これからは平和についてさまざまな視点から考えていきたいです。

■ 1年生 I.Mさん

今回の交流を通して、さまざまな視点に気づくことができました。高校生だけでは出ないような考えが小学生からたくさん出てきて、とても良い刺激になりました。

小学生のひたむきな姿を見て、私も初心を忘れずに頑張りたいと感じました。

平和や原爆について考えるとき、伝えるときには、多角的な視点を持つことの大切さを改めて実感しました。

■ 1年生 U.Tくん

今回の交流は、教師という職業の大切さや魅力を学ぶ貴重な機会となりました。

広島ならではの平和学習の場で、小学生が自分の思いをしっかりと言葉にし、それを共有しながら新たな気づきにつなげていく姿に驚かされました。

「こんな言葉まで知っているの?」と思う瞬間も多く、子どもの成長を間近で感じられるのが教師という仕事の魅力だと改めて実感しました。

この経験と小学生の笑顔を励みに、これからも夢に向かって努力していきたいです。

■ 1年生 I.Yさん

今回の交流は、将来の自分にとって良い経験になると思い参加しました。

吉島小学校の児童は、私が小学生だった頃よりもさらに平和学習に熱心で、分かりやすく伝えるために多くの意見を出していて、とてもすごいと感じました。

思いを伝える方法は一つではないこと、小学校の先生方が児童の意見を否定せず、丁寧にアドバイスをしていた姿から、生徒との向き合い方を学ぶことができました。

この経験を生かし、将来について改めて考えながら、一つのことをさまざまな視点から捉え、よりよい方法を探していきたいです。